

第8回建設トップランナーフォーラム⑦

第4部「老朽化から社会インフラを守る」

では、「知床におけるエンジニア事業」と題して斜里建設工業(北海道)の土田好起氏、岐阜県メンテナンスエクスパート」と題して丸ス産業(岐阜県)の加藤十良氏、「青森県橋梁アセットへの取り組み」と題して中網組の羽賀義広氏が事例発表した。



【土田社長】



【加藤氏】



【羽賀社長】

中網組は、06年度から8年連続で上北地域県民局管内の橋梁維持工事を受注している。同社の羽賀義広社長は「点検やメンテナンスを前提とした橋づくりに技術開発が重要」と話す。また長寿命化しても「橋そのものの寿命があるため、安全・安心な橋梁の判断基準が課題になるだろう」と指摘する。

「自然と共存して地域貢献」

世界自然遺産の北海道知床で建設業を営む斜里建設工業(斜里町)の土田好起社長は「地元観光協会やNPO法人からの感謝状が最もうれしい」と笑みをこぼした。同社は観光道路であ

社会インフラを守る 中網羽賀氏も事例を発表

「MEは予防保全の専門家」

「橋守」こそが橋の町医者」

る知床峠の除雪を請け負い、ブランド品の「知床エソシカ肉」を東京都内のレストランに販売する。いずれも自然との共存と地域への貢献が根底にある。

エソシカの食肉加工は、激増の1途をたどる農作物を食い荒らす害獣対策として認知されている。土田社長は「自然に逆らわず、知床に根付いた業者として役割を果たしていきたい」と力強く語った。

岐阜県は、増大する社会資本のメンテナンスに向け、岐阜大学と共同で維持管理を担う専門家として「社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)」を養成している。県内に1

岐阜県メンテナンスサポート(MS)と連携して県内の道路を守る取り組みを始めている。

丸ス産業(岐阜県白川町)には2人のMEが認定されている。加藤十良工務部取締役部

長は、MEに求められている役割について、「予防保全のエキスパートであり、ゼネラリストの視点を持ったスペシャリストであるべき」と強調する。

「顧客中心主義を実践し、ネットワークを駆使して仕事をすることが大切」とした上で、「そこで得た情報に会社組織の力を結集することが、公益的な責任は果たすことになる」と話す。

青森県では、2005年度に橋梁アセットマネジメントアクションプランを策定し、06年度から運用を始めた。県では、橋梁の長寿命化には日常的な維持管理が最も効果的との観点から、日常点検や清掃、維持工事、緊急措置、小規模工事、追跡調査などをまとめて簡易公募型プロポーザルで施工者を特定